

福祉のことを考えた夏

中里中二年

大森

匠悟

おわり しゅうじ

今年の夏は、たくさん人の場面で福祉という

ことについて考え機会がありました。

その中でも、特に考えさせられることになっ

た出来事は、職場体験です。僕は、人と関わ

り、手助けのできる仕事に将来就きたいなど

思い、特別養護老人ホームを選びました。職

場体験を通して三つのことを学ぶことができ

ました。

一つ目は、利用者の方への接し方です。

接しやすさい方もあれば、接しにくい方も

いました。その中でも職員の方々には笑顔で、

○○さん」と誰にでも話しかけていたの

です。いろいろな思いをしました。話しかけるのに苦

戦しているようでは、ダメだなと思います。

たくさんの方と話すことで慣れることが大切

かと思いましたが。

二つ目は、コミュニケーションを取り、こ

の大変さです。耳の遠い方には耳の近くで大

きい声で話すこと。耳の聞こえない人に  
 は筆談で接するなどの言葉を伝えるというコ  
 ミュニケーションのとり大変さ、相手の伝  
 えたいことを読みとるというニつのコミュニ  
 ケーションをとる大変さも学ぶことができま  
 した。間違っ て解釈してしまふと、利用者  
 方を不安にさせ、てしまふたり、おどかさ  
 しまつたり難しいな思いました。  
 三つ目は、担当の係の方から教えていた  
 いたこと。それは福祉という意味です。  
 かくしの「か」はかだんの、「く」はくらし  
 を、「し」はしあわせにという意味が込めら  
 れているという。ことを教えていただきました。  
 僕はいままで、福祉は高齢者の方、障害のお  
 り方を助けること、が福祉なのかなと思っ  
 ました。しかし、「かだんのくらしをしあわ  
 せに」ということを聞き、ゴミを捨たりし  
 たことも福祉というふうになるなと思  
 ました。遠いイギリスだった福祉が身近に  
 なんだなと思、少しでもかだんのくらしが

1  
5  
10  
15  
20

しあわせになるよう、自分で役に立てること  
を考えていきたいと思いました。

二日間という短い時間だったのですが、た

くさんの福祉についての勉強ができました。

自分に足りないコミュニケーション能力や利

用者の方の気持ちなるなどという部分が足り

ないなと感じました。とても良い体験になり

ました。

もう一つ思ったことがあります。それは、

将来やはり高齢者の方に対して福祉ができ

る老人ホームのような施設に就きたいなと改

めて思いました。そして、だれにとっても暮

しが豊かに生活できる環境となるような仕事

をしていきたいなと思います。